

〔特別支援の実践〕

自立活動学習指導案

日 時：令和元年11月13日（水）5校時

場 所：浦添市立前田小学校 視聴覚教室

対象児童：情緒学級 男子17名、女子2名 知的学級 男子6名 病弱学級 男子1名
難聴学級 男子2名、女子1名 肢体不自由学級 女子1名

指導者 T1：崎浜 智恵

指導者 T2：名嘉原奈津子 長川由美 下地知加 玉寄美沙 新垣光理 西江菜月

ヘルパー：宮城 直子、原 聡子、前田 いつき

1 題材名 「モノレールに もう乗れーる！」

2 ねらい

地域に開通するモノレールについて関心を持って調べたり、見学したりする活動を通して、暮れの町見学でモノレールを利用するにあたっての良い点や課題点に気づき、その解決策を友達と話し合う中で、自分の考えを伝え、他者の意見を取り入れることができる。

3 研究テーマとの関連

校内研テーマである「かかわりつながりながら地域への思いや考えを深め活動していく児童の育成 ～ESDの視点を取り入れた学習指導を通して～」を受け、支援学級同士や通級学級での交流、幼稚園児を招いての交流、他校との交流等を通して人とかかわり、栽培活動や製作活動を通して自然とかかわる等、様々なかかわりを意識した活動を行ってきた。

今年、地域にモノレールが開通し、校区に3駅をかかえる前田小とモノレールとの関わりは密になる。12月には暮れの町見学でモノレールを利用するなど、児童は生活の中でモノレールを利用する機会が多くなる。そこで、児童が自分たちの力でモノレールに乗り、さらにモノレールを通して地域を見ることで地域とのつながりを深めることを目指したい。

これまで、沖縄県都市モノレール株式会社の方の講話を聞いたり、浦添市モノレール担当者の方シミュレーション動画を見せてもらったりした。また、モノレール開通式へ参加し、地域とつながる活動をすることで、ESDで身につけさせたい能力や態度(以下、能力・態度と略す)⑦⑧を意識した学習を行ってきた。

また、一駅体験を通して能力・態度①を培い、見えてきた課題についての解決策に対して自分の意見を持つことで能力・態度②を培い、さらに本時では自分の気持ちや考えを伝え合うと共に他者の気持ちや考えを尊重し、他者と協力・協同して考えるなど同学年、異学年の仲間と関わらせることで能力・態度⑤⑥を高めたい。それらを通して、自分の住む町に新しく走るモノレールについて、誰でもいつでも気軽に利用することができるように考えることで、地域への思いをさらに深めさせたい。

4 題材設定について

(1) 題材について

本題材は、「モノレールに もう乗れーる！」と題し、自立活動のねらいである「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」を受けている。児童が住んでいる地域にモノレールが開通することから、利用方法を調べたり、切符の買い方・乗り方について体験し

たりする活動を通して、モノレールを身近に感じ、子ども達が活動の幅を広げる機会となることを目指して設定したものである。また同時に、モノレールについての学習を通して実際に体験してわかった事や困った事に目を向け、その解決策をグループで話し合わせる。

また、12月には「暮れの町見学」でモノレールの利用を予定しており、児童は買い物体験や施設見学を楽しみにしている。暮れの町見学後は振り返り学習を行い、見たことや感じたことをまとめ、発表する。

(2) 児童観

本校には自閉・情緒学級、知的学級、難聴学級、肢体不自由学級、病弱・虚弱学級の計7学級に33名の児童が在籍している。児童はそれぞれコミュニケーション力や、学習面、身体面において障害特性があり、個別の教育支援計画を作成しそれぞれの課題に取り組んでいる。

特別支援学級、協力学級での学習の他にも近隣校との交流学習や校内での特別支援学級児童全員で行う販売学習や暮れの町見学等、自立活動を中心とした学習を行っている。

児童の共通している課題としては、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の話の意図を考えながら聞いたりすることが挙げられる。意欲的な児童も多いが、思い通りにならないと友達とのトラブルに発展することもあり、感情のコントロールや、相手の立場になって考える事が苦手な児童も見られる。

(3) 指導観

モノレールが開通し、家族や友達と利用する機会が出てくる。すでに開通している駅の名前や場所、駅の近くにはどんな店があるか等、昨年の買い物学習で利用した事やこれまでの経験等を思い出させながら、今回開通した経塚駅、浦添前田駅、てだこ浦西駅について調べていくことに期待感を持たせたい。

モノレールを利用するにあたり、実際に自分でキップを買って目的地まで行く経験をさせ、どの場面で困り観を感じるのかを考え、解決するにはどうすればよいのか友達や教師と考えていくようにしたい。特に、障害特性から支援を要する児童については、自分で周りの人に支援をお願いすることや、周りの児童が、どのように支援したら良いかを考え、手を差し伸べることができるようにしたい。

さらに地域の人や駅の職員にインタビューしたり駅の見学をしたりすることで、児童自ら課題を発見していった。課題の解決策をグループで話し合い、いろいろな方法で発信する児童の姿を目指し、支援していきたい。

3 ESDの視点表

持続可能な社会づくりの構成概念						ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度								
Ⅰ 多 様 性	Ⅱ 相 互 性	Ⅲ 有 限 性	Ⅳ 公 平 性	Ⅴ 連 携 性	Ⅵ 責 任 性	① 課 題 を 見 い だ す	② 批 判 的 に 考 え る	③ 計 画 を 立 て る 力	④ 未 来 を 予 測 し て	⑤ 多 面 的 ・ 総 合 的 に 考 え る 力	⑥ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 行 う 力	⑦ 他 者 と 協 力 す る 態 度	⑧ つ な が り を 尊 重 す る 態 度	⑨ 進 ん で 参 加 す る 態 度
【多様】	【相互】 ○	【有限】	【公平】	【連携】 ◎	【責任】	〈課題〉	〈批判〉	〈未来〉	〈多面〉	〈伝達〉 ◎	〈協力〉 ○	〈関連〉	〈参加〉	

4 指導目標を達成するために必要な項目の選定と指導内容

選定した項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。 (4) 集団への参加の基礎に関すること。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	(4) 身体の移動能力に関すること。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

具体的な指導内容	モノレールをより良いものにすることに興味関心を持つこと。	一駅体験を通して、課題に気づき、解決方法を調べ、考えること。	実際にモノレールを利用して目的地まで行くこと。
----------	------------------------------	--------------------------------	-------------------------

5 指導計画

時間	学習内容	ESD の視点
1 (全)	「SDGs ってなあに」 ・SDGs についての話を聞く。	⑦⑧
2	「モノレールについて知りたいことをはなしあおう」 ・質問を考える。	①④
3 (全)	「モノレールのおはなし」 ・お話を聞く。	知識・技能
4	「モノレールけんがくのけいかくをたてよう」 ・見たい所、知りたいことを考える。	③⑧
5	「モノレールひとえきたいけんへいこう」 ・モノレールに乗る。	⑤⑥
6	「たいけんしたことをまとめよう」 一駅体験で思ったこと、気づいたことを話し合う。	④
7	かだいを決め、かいけつさくをかんがえよう。 (自分たちがこまったことを)	④⑥
8	かいけつさくに対するじぶんのいけんをもとう	②
9 (全)	「みんなではなしあおう」 ・暮れの町見学でモノレールを利用するために、課題を解決する。	⑤⑥

10	「くれのまち見学へしゅっぱつ」 ・自分で切符を買い、モノレールに乗る。	⑥⑧
11	「くれのまち見学のまとめ」 ・体験したことをまとめる。	⑤⑦
12	「はっぴょうかいのじゅんぴ」 ・発表の準備をする。	⑤⑥
13 (全)	「おうちの人にみてもらおう」 ・発表した時の課題を手直しする。	③⑦
14 (全)	「先生方にきいてもらおう」 ・まとめたことを発表する。	③⑦

6 児童の様子と目標

児童	学年	児童の様子	本時の指導目標
A	1	・慣れた友達の中では教師の話を理解し、支援なしで行動できる。	・解決策のアイデアを考えることができる。
B	1	・注意力に欠けるが、集団行動はできる。	・相手の話を聞き、伝えることができる。
C	1	・集団行動はできるが、困った時、助けを求めることが難しい。	・自分の考えをもつことができる。
D	1	・集団行動はできるが、集中力が短い。	・落ち着いて話を聞くことができる。
E	1	・注意散漫になる時もあるが、集団行動はできる。	・相手の話を最後まで聞いたり、自分の考えを持ったりすることができる。
F	1	・話を聞くことはできるが、不用意な発言をすることがある。	・落ち着いて学習に参加することができる。
G	2	・友達や教師の話をよく聞き、理解して行動できる。	・課題について考え、自分の考えを友達に伝えることができる。
H	2	・自分のできることには積極的に取り組むが集中力は短い。	・自分の考えをもって話し合い活動に参加することができる。
I	2	・簡単な指示は理解できるが、場合によっては集団行動が難しい。	・お友達と協力して楽しく課題に取り組むことができる。
J	2	・集団行動は可能だが、話を理解するのが難しい。	・お友達と協力して楽しく課題に取り組むことができる。
K	2	・集中力が短く、不用意な発言をすることがある。	・落ち着いて話し合い活動に参加することができる。
L	2	・集中力が短く、落ち着きがない。	・落ち着いて話し合い活動に参加することができる。
M	2	・周りとは仲良くできるが、困ったときに自分から助けを求めることがなかなかできない。	・集団の中で、積極的に話し合い活動に参加し、自分の意見を伝えることができる。

N	3	・よく話を聞き、理解力も高い。ただし、自分の意見を表現することは苦手。	・課題について自ら考え、表現することができる。
O	3	・話していることへの理解力は多少はあるが会話は難しい。	・みんなの輪の中に入って楽しく活動することができる。
P	3	・集団参加は積極的に出来るが、集中力が長続きしない。	・課題について取り組み、自分の考えを伝えることができる。
Q	3	・興味のある学習には意欲的だが、集団の中では、内容を理解できていない時もある。	・課題や学習内容を理解し、自分の考えを発表することができる。
R	3	・集団活動は苦手だが、自分で意見を持ちながら取り組む意欲がある。	・友達の意見も聞きながら、自分の考えた解決策を発表することができる。
S	3	・理解力は高いが、「話すとき」「聞くとき」のメリハリがない。	・誰が話す時間なのかを考え、発表したり聞いたりすることができる。
T	3	・理解力は高い。話し手の方向を見て話を聞くことができないときがある。	・話し手を意識して、話を聞くことができる。
U	4	・集団の中では気持ちが落ち着かず、一斉指示が取らなかつたり、不用意な発言をする。	・落ち着いて、話し合いに参加できるようにする。
V	4	・内容は理解しているが、気分が乗らないと作業が進まず、時間がかかる。	・周りの友達に合わせた行動が出来るようにする。
W	4	・一斉指示では、内容が理解できていなかったりするので、声かけが必要。	・積極性があるので、自分の考えをまとめて、発表できるようにする。
X	4	・話を良く聞いて、自分で考えて行動することができる。	・友達の意見を聞きながら、自分の考えを発表することができる。
Y	4	・理解力はあるが、指示を聞いていなくて作業が遅れることがある。	・やるべき事をよく考えて、解決策を自分なりに考える事ができるようにする。
Z	5	・意欲的に取り組み、考えを述べたりできるが正しく理解していないことがある。	・友達の意見をしっかりと聞いて、解決策を考えようと話し合いをする。
a	5	・何でも楽しんで取り組むことができ、自分の考えを述べることができる。	・話し合いを進めながら自分や友達の考えをまとめることができる。
b	5	・話を正しく聞き、理解している。少人数グループでの発言はできる。	・友達の考えを聞いてよりよい解決策を考え、まとめることができる。
c	5	・大勢の中にいることは緊張するが、友達と学習することを楽しんでいる。	・友達と一緒に解決策を考えたり、意見を聞いたりする。
d	6	・集団行動は問題なくできるが、自分の意見を伝えることが苦手。	・話を聞き、自分の考えや意見を相手に伝えることができる。

7 本時の学習【8/13時間】

(1) 目標

モノレール駅体験でみえた困ったことや気になったことの解決策を考えたり、話し合ったりすることができる。

(2) 本時の授業の工夫

- 互いに前もって解決策を読み合うことで、よりよい意見交換ができるようにする。
- PMI シートを使うことで、多面的な観点から対象を見ることができるようにする。
- 石垣さんからのビデオレターを見せることで、これからの活動への意欲を高める。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目 (方法)
導入 5分	1. 今日の学習について知る。	学習内容について、具体物を提示しながら知らせる。視覚的にふり返る。	
	自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしよう。		
展開 30分	2. 解決策を提案しよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (1) 解決策の提案 (2) 質問 (3) 意見交換 *時間内に言えなかった意見は、付箋紙で示す。 </div> 〈こまったこと・気になったこと〉 ○背が低い子 ○文字が読めない子 ○目的の駅が不安 ○お客さんをもっと増やしたい ○昼でも外灯がつけっぱなし ○ラッピングの意味がよくわからない。	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに前もって解決策を読み合うことで、よりよい意見交換ができるようにする。 ・PMI シートを使うことで、多面的な観点から対象を見ることができるようにする。 ・自分の気持ちを表した絵カードを使ったり、簡単なジェスチャーを交えるなどして自分の意図を伝えることができる。 ・よい点や改善点等を付箋紙に書いて残すことで、企画の練り直しに生かせるようにする。 ・書く用紙を用意 ・グループ毎にテーブル用意 	【思考】《⑤伝達》 考えや思いを自分ができる方法で伝え、友達の考えを受け入れることができる。 【学び】《⑥協力》 ・グループの仲間と協力し合ったり、励まし合ったりしながら活動することができる。
まとめ 10分	3 めあてを振り返り、感想を発表する。 4 これからの活動への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換を受けて、今後の活動を振り返らせる。 ・沖縄都市モノレールの石垣さんからのビデオレターを見せ、今後の活動に意欲をもたせる。 	

9 授業研究会の記録

(1) 研究経過

市の美術展に向けて、モノレールをテーマにちぎり絵の作成(図1)を行うことで、特支の児童同士のつながりやモノレールへの関心を持たせることから始め、単元の事前学習として、学校の掲示板に掲示されているSDGsに関する写真から感じ取れることを各学級で話し合った(図2)。SDGsへの理解を深めるため、単元の初めにSDGsの17の目標や2015年までの開発目標であったMDGsなどについての講話を1時間設けると、児童は熱心に聞き入り、「誰も取り残さない」という意識を持つことができた(図3)。また、浦添市役所でモノレール事業に関係している保護者からの講話(図4)や沖縄都市モノレール会社の石垣さんの講話(図5)などで学校の外部の人・もの・こととつなげることでモノレールへの関心をさらに高めた。

次に、一駅体験を行い、モノレールの駅や乗車における良い点と課題点を探した(図6)。当初、暮れの町見学に向けて、特支児童が互いにその特徴を補い合うための課題を教師は予想していたが、児童はその予想を上回り、自らインタビューを行い進んで調べようとしたため、モノレールを使ってできる町おこしなど課題が膨らんでいった。それらの課題をダイヤモンドランキングづけし、上位6つを取り上げ(図7)、各グループで考えたい課題を決めさせ、それらの解決策をクラゲチャートで考えさせた(図8)。それら各グループが出した解決策に対して、PMIシートを使って批判的に考えさせ、全体で話し合ったのが本時である。PMIシートは、児童の意欲を喚起できるようモノレールの絵を取り入れたり、大きめの付箋紙が貼れるようにしたりと工夫した(図9)。

グループで話し合い活動を行うことで、横のつながりができ、上級生にリーダーとしての自覚が生まれた。文が書けない子は絵で表したり、じっと座ってられない子はできるときに輪に入ったりしながら、なるべく全員が参加できるようにした(図10)。児童自ら駅員さんやお客さんにインタビューをすることで人とのつながりがさらに広がり、考える時間が足りなかった子には保護者の協力をもらうことで保護者のSDGsへの関心も高まった。



(図1) 浦添市美術作品展で市長賞受賞



(図2) SDGs 事前学習の様子



(図3) 智恵先生のSDGs講話



(図4) モノレール浦添延長に携わった島袋さんの講話



(図5) 沖縄都市モノレール株式会社の石垣さんの講話



(図6) モノレール駅体験



(図7) ダイヤモンドランキングによる課題のランキングづけ



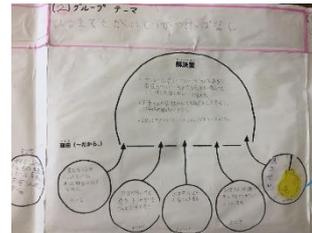
(図8) クラゲチャートで解決策を考えているところ

※かんがえと りゆうを かきましょう。(なまえ)

かたづけおく
 ○モノレールの人に てんじや えもしを いっぱいはってもらう。
 ○えもしは えであらわしているから しわフォン。
 ○モノレールをつかった人に しわフォンを置いてもらう。

P プラスPlus よいところ	M マイナス: Minus たりにないと思うところ、もっとよくしたいところ	I インタレストイング: Interesting 気になること、ぎもん、くあう、ひつようなことなど

(図9) 工夫したPMIシート



字が書けない子は絵で表す。



(図10) それぞれの参加の形

(2) 本時をふり返って

1年生から6年生までいるので、中学年程度の単元計画を立てようと、昨年通常学級の4年生でやった流れを、特支児童に合うよう他の先生方のアドバイスをもらいながら内容を考えた。特支の児童は突然の対応が難しいので、前もって解決策に対する意見をPMIシートに書かせていたため、自信を持って発表できていた(図11)。また、この単元を通して、特支児童同士のつながりが深まっているので、安心して発表できているのも感じた(図12)。発表の際には、大きな声が出せない児童のためにマイクを用意した。

それぞれの課題を考えることはSDGsの何番とつながるのかも考えさせることで、常にSDGsを意識して活動できるようにした。グループ学習は特支の児童は厳しいが、地域とのつながり、家族とのつながり、会社や役所とのつながりなど、学校だけで完結させるのではなく、外と繋げることで今日のように意欲的な活動になった。自分達で課題を見つけて解決策を考えていく過程で、ESDでつけたい様々な力がついていったのが見て取れた。

沖縄に一人しかいない駅長さんからのビデオメッセージは、児童の意欲をさらにかき立てるものであろう(図13)。



(図11) 解決策に対する意見発表



(図12) 解決策の発表



(図13) 駅長からのメッセージ

(3) 質疑応答より

〈良い点〉

- 子どもたちの個性に合った発表だった。
- ちぎり絵に始まり、児童が興味を持てるような単元の構成であった。
- 自分の考えを伝えられるような配慮がされていた。SDGs への関心の高さが窺えた。
- 通級学級では、特支の児童ができない事がたくさんあるが、ある日意見を言えるようになった。この単元を通して自信をつけたのがわかった。
- 手立てが5つあって、有効に働いていた。解決策を事前に確認したのでスムーズだった。

〈課題点〉

- モノレールの調べ学習の課題が難しかった。高学年中心になっていた用を感じるので、キーワードだけでも分かりやすくすると良かった。

〈改善策〉

- ・障がい別や学年別などグループ分けの配慮をするといいいのでは？
- ・人が多い写真と少ない写真を見比べさせるなど、何が課題なのかを視覚化するとよいのでは？
- ・前もってやってるなら、黄緑用紙の近くに写真を貼って言い合ってもいいのでは？動的な活動入れても良かったのかな？

〈赤嶺 栄達指導主事より〉

- ・今日は4番の「質の高い教育を」に当てはまる。持続可能な社会を作るためにはこの視点では2、5番。
- ・発達の段階に応じて、課題について考えられていた。
- ・特支の教育課程の編成 YES or NO (資料参考)
- ・交流及び共同学習の意義・目的をはっきりさせる。子どもたち同士の関わりが必要なので、教師の仕組みが必要。地域の関係者の協力を得たこともよかった。知識やノウハウを教えることよりも、多様な考えを探ることが大事。
- ・授業の中で発表できて、褒めてもらえたら嬉しいから、今日は満足した児童が多い。
- ・教師が子どもたちの考えをつないでいた。駅長の話を取り入れた事で意欲的になった。
- ・障がいの特性にあった表現の仕方を考えていった。書けない児童は無理させずに発表するだけで良い。道徳の振り返りなども聞き取りで評価に生かしてもいい。
- ・特支の先生方の関わりもできていた。安心して授業に臨めていたので前田では、計画的な継続した特支のESDカレンダーがあるから上等。
- ・これからの未来のために、地域に根ざしていく為に発想力、企画力、実践力、改善力！

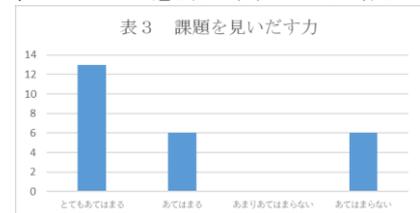
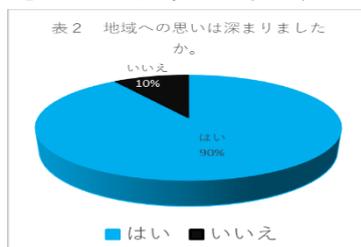
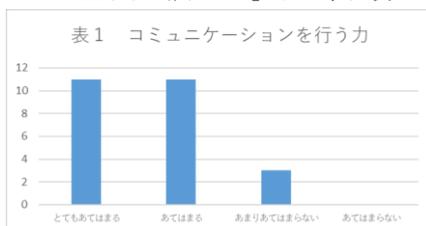
〈新崎 每子コーディネーターより〉

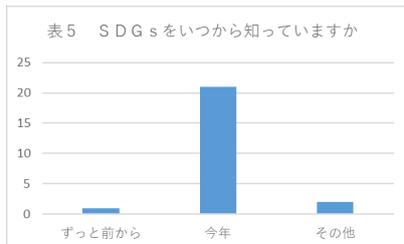
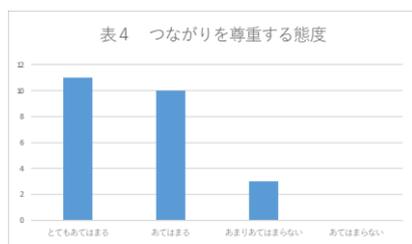
- ・文章で出すのではなく短く書くとよい。振り返りの工夫は実態に応じてよい。障がいの特性に応じて、それを克服させる授業をしてほしい。
- ・一日の情報を伝えて見通しをもたせ、情緒の安定をさせる工夫。
- ・授業の方法「見える化」「聞く化」「作業化」が大切。
- ・座っているだけでいい児童がいる。それを振り返りで褒めてあげる。

10 研究の成果と課題

(1) 成果

- 異種・異学年の特別支援の児童が共に学習をし、児童同士のつながりかかわりが増えることで、発表することや説明することに慣れ、通級時に発表の回数が増えてくるなど、通常学級における学びにつなげることができた(表1)。
- 地域への思いを深めた子が9割に達し、地域のためにモノレールを存続させたいという思いから「前田駅をもっと利用したい」「浦添の大切なものを広めたい」など、モノレールをより利用してもらう方法を考え吟味し、地域の活性化を図る取り組みを考えるようになった(表2)。
- 児童が現地に行き見学したり体験したりすることで、課題に気づくことができた(表3)。
- 低学年が「モノレール」に焦点を当てた思いを多く書いているのに対し、中学年は地域学習(総合や社会など他教科)等とも関連させて、「地域」に焦点を当てた思いが多く書かれている。通級での学びがつながっていることがわかる。(表4)
- SDGsについて知っている児童は100%で、ほとんどの児童が今年取り組みの中でそれを意識するようになったと答えている。また、「給食の完食を意識した」「蛇口をきちんと閉める」「前田の歴史を調べた」など、自分ができることを考えて取り組むなど、SDGsへの意識が高まった(表5)。



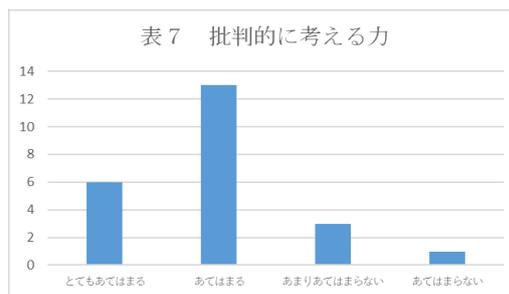


(2) 課題

- 「調べ学習をする時、見通しをして課題を解決するための情報を探すことができますか。」の項目は、8人が否定的な答えであった。それは、見通しを持ったり、自分で考えたりす

ることが難しい事が考えられる。よって、調べ方のパターンを視覚的に示し、選択させるなどの工夫が必要である(表6)。

●批判的思考に関する項目では、肯定的に答えた児童が多く見られたが、実生活でも活かせるような手だてを工夫していきたい。それは、体験的な活動が少ないことが考えられる。よって、教師が、「キーワード」を意識した声かけをしたり、体験的な活動を積極的に取り入れたりする工夫が必要である(表7)。



〈その他〉

○学習計画

モノレールにもうのれーる！ 学しゅう計画	
じかん	がくしゅうすること
1 (全)	SDG'sってなあに？ (ともえ先生のおはなしをきこう)
2	モノレールについて知りたいことをはなしあおう (知りたいことを いっぱい かんがえよう)
3 (全)	モノレールのおはなし (石垣さんのおはなしをきこう)
4	モノレール見学のけいかくをたてよう (みてくること たいけんすること)
5	モノレールひとえきたいけんへ行こう！ (前田えきから きょうづか駅までのってみよう)
6	たいけんしたことをまとめよう (できたこと わかったこと こまったことは?)
7 (全)	かだいを出し合おう (自分たちがこまったことを一つ以上見つける)
☆	かいつくさくを考えよう (ワークシートに個人で)
8 (全)	みんなではなしあおう (まとめたことを はっぴょうしよう)
9 (全)	くれのまち見学へしゅっぱつ！！ (モノレールにのってでかけよう)
10	くれのまち見学のまとめ (たいけんしたことを じょうずにまとめよう)
11	はっぴょうかいのじゅんひ (みんなできょうりよくして じゅんひをしよう)
12 (全)	おうちの人にみてもらおう (ともだちと やくわりぶんたんして がんばろう)
13 (全)	先生方にきいてもらおう (じしんをもって はっぴょうしよう)

○児童の振り返りより

- ・発表ができて良かったです。それに対して答えてもらったので、心がワクワクして楽しかったです。これからもモノレールをよくして、発表も頑張りたいです。(Fさん3年生)
- ・今までは、緊張しながら話していたけれど、今日は落ち着いて話すことができました。また、他の人の意見と聞き比べることもできました。(Rさん5年生)
- ・～と自分は良い考えを言ったなと思いました。少しでも前田駅を良くすると、利用客がいっぱい増えそうです。引き続き頑張りたいです。(Yさん2年生)
- ・今日は意見を言って、そして隣の人に意見を言ったりして、またなりに意見を言ったりして、隣同士で意見を言い合っていました。(Nさん4年生)



〈参考文献〉

- ・『「思考ツール」の授業』著 田村 学/ 黒上 晴夫
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)